

日本家庭教育学会

令和元年（第34回）大会のご案内

◆大会テーマ

《現代、^{いま}家庭教育の重要性を考える》

◆主 旨

1906年高等師範附属小学校の加藤末吉訓導は、その著『学校と家庭との連絡』において、「家庭教育に関する著書の出版は著しい」といい、当時の家庭教育の盛況ぶりを伝えながら、「学校教育と家庭教育の融合が重要である」という認識を示していた。

1930年12月の文部省訓令18号「家庭教育振興に関する件」では、「昔、家庭は、心身育成、人格涵養の道場であったが、学校教育の勃興とともに教育を学校に一任し家庭には責任がないという風潮となった」と学校制度が定着してくると、教育が学校に一任されている風潮を指摘している。

このように家庭教育については、明治時代から喧伝されていたが、家庭教育が再び注目を浴びだしたのは、戦後になってからである。1960年代の高度成長期に入ると、農業社会は工業社会へと構造変化し、学校教育の拡大に伴う進学率の拡大は、進学準備・家庭学習の行き過ぎが指摘され、家庭教育に対する役割の重要性が再認識された。1971年6月には中教審が『今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について』の中で「これからは家庭教育や社会教育が一層重要な役割を果たすことが必要である」と答申し、1972年には文部省が『家庭教育に関する事例集』を刊行し、家庭教育学級の普及に尽力していた。2006年の教育委基本法改正時に、同法10条に家庭教育の条文が挿入されたことは記憶に新しいところである。また2013年9月施行の『いじめ防止対策推進法』第9条に「保護者は、その保護する児童等がいじめを行うことのないように指導」するように規定されている。2018年からは「道徳」が「特別の教科」として採用され、学校教育として道徳教育が行われるようになった。

しかしながら最近の「いじめ自殺」報道や「親のこども虐待」事件、「家庭における乳幼児の基礎的生活習慣教育と学校の道徳教育」などを考えると、親教育も含めた家庭教育の必要性が感じられる時代となった。そこで今大会では、長年、社会の第一線で家庭教育の振興を訴えてこられた、公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会会長の永池榮吉氏を講師にお招きし、現代における家庭教育の重要性や意義、あり方を考えてみたいと思います。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

- ◆日 時：令和元年 8 月 17 日（土）09：45～17：00
 - ◆場 所：貞静学園短期大学
 - ◆参加費（資料代）：1000 円（懇親会参加者別途 5000 円）
 - ◆時 程：
 - 09：15 受付開始
 - 09：45 開会式
 - 10：00 個人研究発表
 - 12：00 昼食・休憩（* 常任理事会）
 - 13：10 講演および全体会
- 講 師 永池榮吉氏
学会顧問・公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会会長
- 16：40 閉会式・会員総会
 - 17：30 懇親会

第 34 回大会 個人研究発表者募集

【応募資格】日本家庭教育学会の正会員

*『家庭教育研究』への投稿を予定される方は大会発表を申し込んでください。

【発表時間】発表時間は 20 分、質疑 10 分とします。

【発表申込】発表をご希望の方は、テーマ及び氏名・所属・住所・電話番号を明記の上、令和元年 6 月 14 日までに下記の連絡先までお申込みください。

【原稿提出】発表原稿の提出締め切りは、令和元年 7 月 19 日です。なお、応募多数の場合には、大会準備委員会で選考させていただきます。申請者には発表用のフォーマットをお送りします。
(発表原稿とは別に 300～400 字程度の要旨も提出してください)

【問合せ先】研究発表をご希望の方は、下記までメールにてお申し込みください。

日本家庭教育学会事務局

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町 4-5（一社）倫理研究所内

E-mail : jimu@hesoj.com